

シンポジウム企画趣旨

Interdisciplinary dentistry（連携歯科医療）は各領域の専門医が互いに協力し合い、より高度な視点と技術により成し遂げられる **Comprehensive dentistry**（包括歯科医療）のことでありと考えております。この時、安全で確実な最高の質の医療を提供しようとした場合には、**2**つの言葉は同じ現実を示す言葉になるのではないのでしょうか。なぜなら一人の歯科医師が歯科治療に関わる全ての知識を把握できたとしても、全て分野に対して最高の技術を得ることは到底不可能であるからです。

過去に行われてきた歯科治療は「長く持つだろうと思って信じて行った処置が予想以上に簡単に壊れ、再治療を繰り返し喪失歯数が増える」という場合が多かったことが指摘されています。従来の **Interdisciplinary dentistry**（連携歯科医療）は、このような状況を改善するための面がクローズアップされていた傾向があり、その場合は補綴医が主導的な役割を担うべきであり、また実際にもそうであったと思います。

旧来の治療システムが引き起こした結果の反省を踏まえ、現在は「生涯にわたる健康な口腔機能を守ること、う蝕、歯周病、不正咬合がなく、咀嚼、発音、審美に問題なく年をとっていける状況を生み出すこと」を目標にシステムを再構築する動きがあります。このような新しい環境での **Interdisciplinary dentistry**（連携歯科医療）は審美的に良好な永久歯列を作り上げ維持するために、口腔のメンテナンスを行う歯科医と矯正専門医が主導的な役割を担う割合が増えていく様に思われます。

以上のようなことを踏まえ、

1. 質の高い安全で確実な歯科医療を提供する **Interdisciplinary dentistry**（連携歯科医療）を実践していく上で各専門医に必要な技量は何か。
2. 質の高い安全で確実な歯科医療を提供する **Interdisciplinary dentistry**（連携歯科医療）を担う人材に対して必要な教育とは何か。
3. 医療の質を担保するためのシステムは必要であるか。そのためにはどの様なシステムが適しているか。

についてディスカッションを行い、**Interdisciplinary dentistry**（連携歯科医療）の現状の把握を行い、明るい未来へ向けてのあり方を示すことができれば幸いです。

星 隆夫